

ICT教育通信

令和3（2021）年9月17日
第5号 小都市教育委員会

臨時休校中も「学びを止めない」ために

この先、新型コロナウイルス感染症拡大状況によつては、臨時休校等の対応が生じてくることが考えられます。しかし、休校においても、子ども達の「学びの保障」と「心のケア」をタブレット端末等を効果的に活用していくことが大切です。

「新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた新学期への対応等に関する状況調査の結果について」（令和3年度9月7日付）の中にある「夏期休業の延長及び臨時休校期間中の学習指導の実施状況」の結果は以下のとおりです。

（全国市町村数の割合）

小学校	中学校
教科書や紙の教材を活用した家庭学習	251 (53.7%)
テレビ放送を活用した家庭学習	34 (7.3%)
学校や教育委員会が独自に作成した学習動画を活用した家庭学習	71 (15.2%)
上記以外のデジタル教科書やデジタル教材を活用した家庭学習	136 (29.1%)
同時双方向型のオンライン指導を通じた家庭学習	127 (27.2%)
家庭でも安全に行うことができる運動	59 (12.6%)
その他	6 (1.3%)

この結果をみると、ICT（タブレット）を活用した学習は、タブレットの準備はあっても、全国市町村の30%前後しか活用できていないことがあります。小都市においては、各学校の先生方のご努力により、家庭への使い方の説明、Wi-Fi環境の確認及び未整備の家庭のための個別の支援等、丁寧に進めていたおかげで、持ち帰りの活用を進めることができます。きめ細かい対応に心から感謝致します。

東京都小6自殺 いじめ示す遺書「おもちゃじゃない！」

東京都田市立小学校6年生の児童（当時12才）が昨年11月に自殺し、いじめを示唆する遺書が見つかっていたことが、新聞・テレビ等で報道されています。学校が児童に配ったタブレット端末のチャット機能で連日悪口を送信される等の被害があつたとされています。背景として、学校のパワードの管理体制の不備が指摘されています。併せて、情報機器を正しく適切に活用する力を育む情報モラル教育の在り方が問われています。各学校においては、小都市ICT教育推進計画に記載している「情報モラル指導モデルカリキュラム」を基に、情報モラル教育を心地よい環境で実施しているか、すべての学級で計画的に実施されているか、子ども達の使い方を見届けているか等の観点から確認をお願いいたします。

ICT教育通信とどもに職員とご確認をお願いします。

～子ども達のタブレット活用の様子を見て～

各学校の授業の様子を視察して、すばらしいなと感じていることがあります。

朝の会と1時間目をZoom等のオンラインにすることによって休み中でも子ども達の規則正しい生活習慣を持続することにもなります。先生方がチームを組んで、オンラインの協力体制をつくることが大切です。

～赤卒用みのところがタブレット活用くちよことひとこと～

朝の会と1時間目をZoom等のオンラインにすることによって休み中でも子ども達に書かせていました。反対に話したいことを発表させる時間も持つと【朝の会の様子】いうことです。

Zoomを使っての算数の学習を行っています。板書とノートを使つての学習で、子ども達は画面を通して発表もししながら、日常の授業と変わらない形で学んでいました。【算数の授業の様子】

～自宅でのタブレットを活用した学習について～

自宅でのタブレットを活用した学習について、文部科学省から通知が出されています。

～ICT教育通信とどもに職員とご確認をお願いします。

～子ども達のタブレット活用の様子を見て～

各学校の授業の様子を視察して、すばらしいなと感じていることがあります。

チーム（Zoom）の交流画面の中で、「先生、〇〇さんが端末の音が出なくて困っています。」と教えてくれたり、授業が終わって退出する際、「さようなら。明日ね。」と互いにあいさつを交わしていたり。オンラインであつても互いの様子に配慮し合っている子どもたちの姿に、普段の学級経営での「つながり」の確かさを感じます。

チャット機能を悪用した「いじめ」の問題が取り沙汰されていますが、「ICT」に非があるではなく、「使い方」「使わせ方」の問題です。ともに想い合はずめようとする「共感」の心をICTを通して育んでいきたいと思います。（秋永）